

プレゼンテーションのすゝめ

～首相演説から学ぶプレゼン上手の極意～

班員 児玉 莉乙 後藤 愛理沙 佐保 ひろな

指導者 九鬼 勉様 図師 崇人先生

研究の動機

プレゼンテーション(以下プレゼン)発表の授業でプレゼンを聞いていて、良いプレゼンには法則があるのか気になった。元々大人数の前で話すことが苦手でもあるので、誰でも良いプレゼンができるようになる方法を見つけたいと思い、このテーマに決定した。

先行研究

矢野香『「話しの上手さ」に対する学生と社会人と人事担当者の判断要因の相違』(2015)では「パラ言語の良さ」や「発話内容の明確さ」が優先されるとあった。これが、演説やプレゼンでも有効なのかは、調査していなかった。

研究方法

- ① 日本の首相から選ぶ
- ② 参考文献(動画)を集める
- ③ 分析する(項目:言葉選び、言葉の繰り返し、アクセント、しぐさなど)
- ④ 分析結果のまとめ
- ⑥ 結果をもとに法則を考える



必要な道具

- ・本
- ・iPad等の端末(動画)

仮説

上手なプレゼンには法則がある。
法則→聴衆をみながら話す
 問いかけ など



〔根拠〕

- ・発表のなかで問いかけがあると引き込まれた
- ・生徒会選挙で原稿を見ずにスピーチをしたら当選した

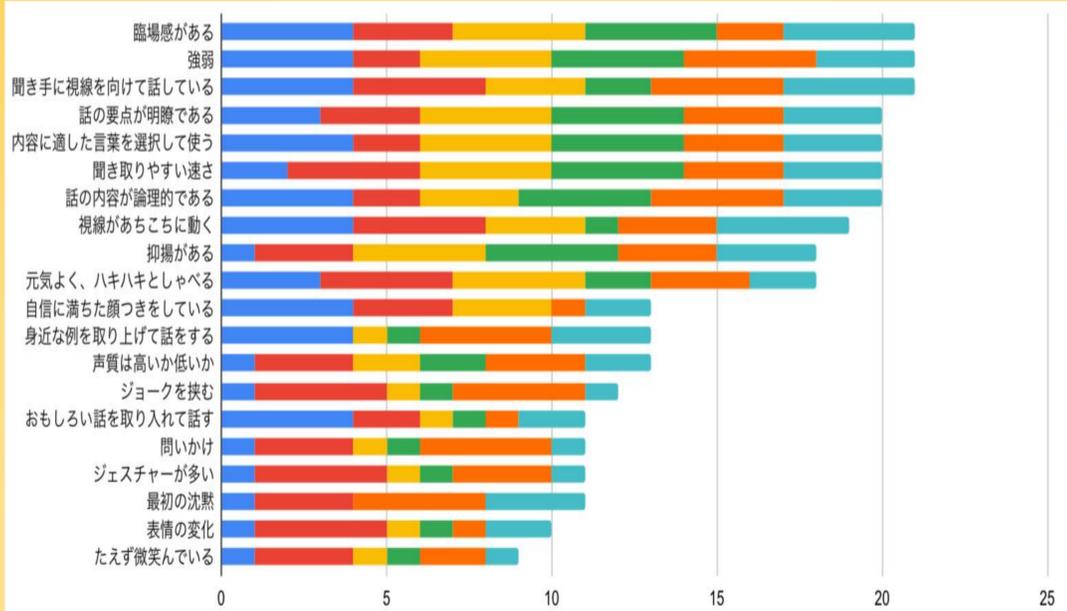
このような法則に則って話すと、誰でも良いプレゼンができる。

参考文献

矢野香(2015)『「話しの上手さ」に対する学生と社会人と人事担当者の判断要因の相違』
<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/wp-content/uploads/journal/pdf16/16-197-207-Yano.pdf>
 臨時国会 衆議院本会議 野田総理「所信表明演説」 2012.10.29
https://www.youtube.com/watch?v=Z3ap_v5B8gI
 菅直人 所信表明
<https://www.youtube.com/watch?v=C4RmMRx6tOI>
 安倍晋三 所信表明
https://youtu.be/n7AGgvqkWm0?si=ch_t-7QI8cUe0s3r
 小泉純一郎 国会施政方針演説
<https://www.gov-online.go.jp/prg/prg336.html>
 臨時国会 衆議院本会議 野田総理「所信表明演説」 2012.10.29
https://www.youtube.com/watch?v=Z3ap_v5B8gI
 東條英機 演説 / Speech by Hideki Tojo
<https://www.youtube.com/watch?v=EvDlpwWz9Ag>
 菅義偉 所信表明
<https://www.youtube.com/watch?v=hltWoNRg214s>



実験結果



項目ごとの合計点(点)と分析した人物(敬称略)

青:野田 赤:安倍 黄:東條 緑:菅義偉 橙:小泉 水:菅直人

最も合計点が高かった項目は「抑揚がある」。逆に最も低かったのは「たえず微笑んでいる」「問いかけ」「最初の沈黙」の三つだった。

1分間に下を見る回数(回)とその秒数の平均(秒)

名前	回数	平均
野田佳彦	11	4.2秒
安倍晋三	8	7.0秒
東條英機	13	1.0秒
菅義偉	10	5.0秒
小泉純一郎	12	3.5秒
菅直人	10	4.4秒

原稿を見ることが多く、平均10.6回。秒数にばらつきはあったが平均4.18秒程と少し長めだった。

考察

声の強弱の差は全員にみられ、他の項目と比べても重要な要素であることがわかる。話の内容の面では、話の要点のまとめ方や論理性の項目の点数が高かったが、言葉そのものはやや難しいものもあった。

目線の動きに注目してみると、5秒に一回程度目線は上げているものの、全体的に下を向いている時間が長かった。このことから考えると、「聴衆を見ながら話す」という項目は重要性があまり高くないように考えられる。

結論

伝わりやすいプレゼンをするには、言葉の選び方や話のわかりやすさなど、話の内容にも力を入れたうえで聞きやすい声で話せば良い。仮説とは違い、問いかけやジェスチャーなどプレゼン中の仕草は特別意識しなくても良いという傾向がわかった。聴衆へ目線を向けるのは5秒に1回程度でも十分であり、話の内容を伝わりやすい言葉で伝えるということが最も重要である。

今後の展望

現代社会においてプレゼン力は学校の授業のみならず、大学入試や就活、社会人生活においても広く求められている。今回は敬語やジョーク等文化の違いによる比較のしづらさから日本人のみの分析としたが、言語の壁を越えた交流も増えている情勢においては他の言語も分析すればより多くの人々に魅力的だと思ってもらえるプレゼン能力の養成に繋がるかもしれない。